

新しいマンモグラフィ 撮影装置の導入

放射線科 山本 さくら

この度2025年3月21日より、マンモグラフィ検診や乳腺科や外科などで多くの患者さんに利用していただいていたマンモグラフィ撮影装置が新しくなりました。

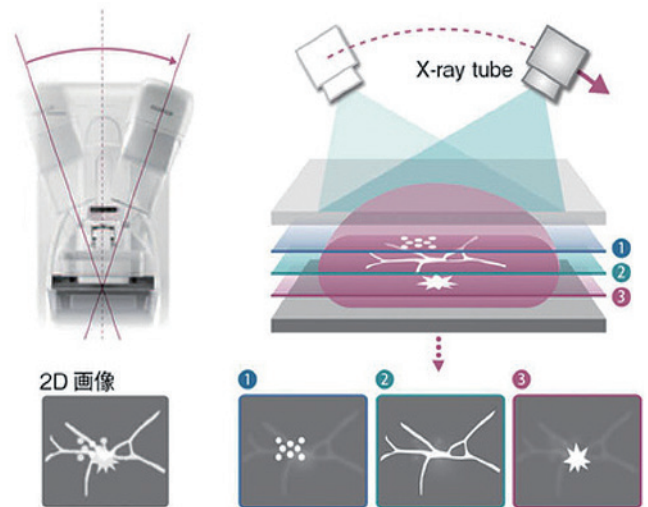
従来の装置よりも低線量で撮影が可能かつ痛みを軽減する機能を備えており、より一層患者さんに寄り添った機器へと更新しました。

今回、当院に導入されました富士フィルム社製 AMULET SOPHONITY の特徴をマンモグラフィ認定技師の私のほうから、さらに詳しく2点ご説明させていただきます。

まず1つ目『なごむね』についてです。通常マンモグラフィは病変を見えやすくするためにも圧迫をしっかりと行い乳房の厚みを最大限うすくし、患者さんが耐えられる最大圧をかけたまま十数秒固定し撮影します。この際に患者さんにかかる痛みがマンモグラフィがほかの検査よりも嫌遠される最も大きな理由の一つだと思います。そこで今回導入された圧迫自動減圧機能「Comfort Comp なごむね」です。『なごむね』は圧迫の目的である乳房の厚みが変化しない範囲で圧迫圧を減圧する機能です。物理現象のヒステリシス現象をもとに活用しており『なごむね』を使用したからといって画像が悪くなることはありません。

2つ目、AMULET SOPHONITY では今まで当院では撮影できなかったトモシンセシス（3D マンモグラフィ）を撮影することが可能になりました。従来のマンモグラフィ装置は2D 撮影のみであるがゆえに、乳腺の量が多い患者さんの場合、乳腺の重なりで病変が隠れ見えにくいことがありました。それを解決するのがトモシンセシスです。下の図のように角度を変えながら撮影を行うことによって従来の撮影方法では発見が難しかった病変の描出が可能となっています。

今までマンモグラフィ検査に対してネガティブな気持ちが多く検診への腰が重かった方にも、今日マンモグラフィの検査があるの嫌だなあと気分が落ちていた方にも、この記事を読み検診、検査、行ってみようかなと思っただけならば幸いです。新しくなったマンモグラフィ装置とともに皆様をお待ちしております。



トモシンセシス（3D マンモグラフィ）



当院では
マンモグラフィの撮影を
女性技師が
対応しております。
お気軽に対応技師に
お尋ねください